

# 計画案の夢

アンビルト・プロジェクト

アトリエCOSMOS

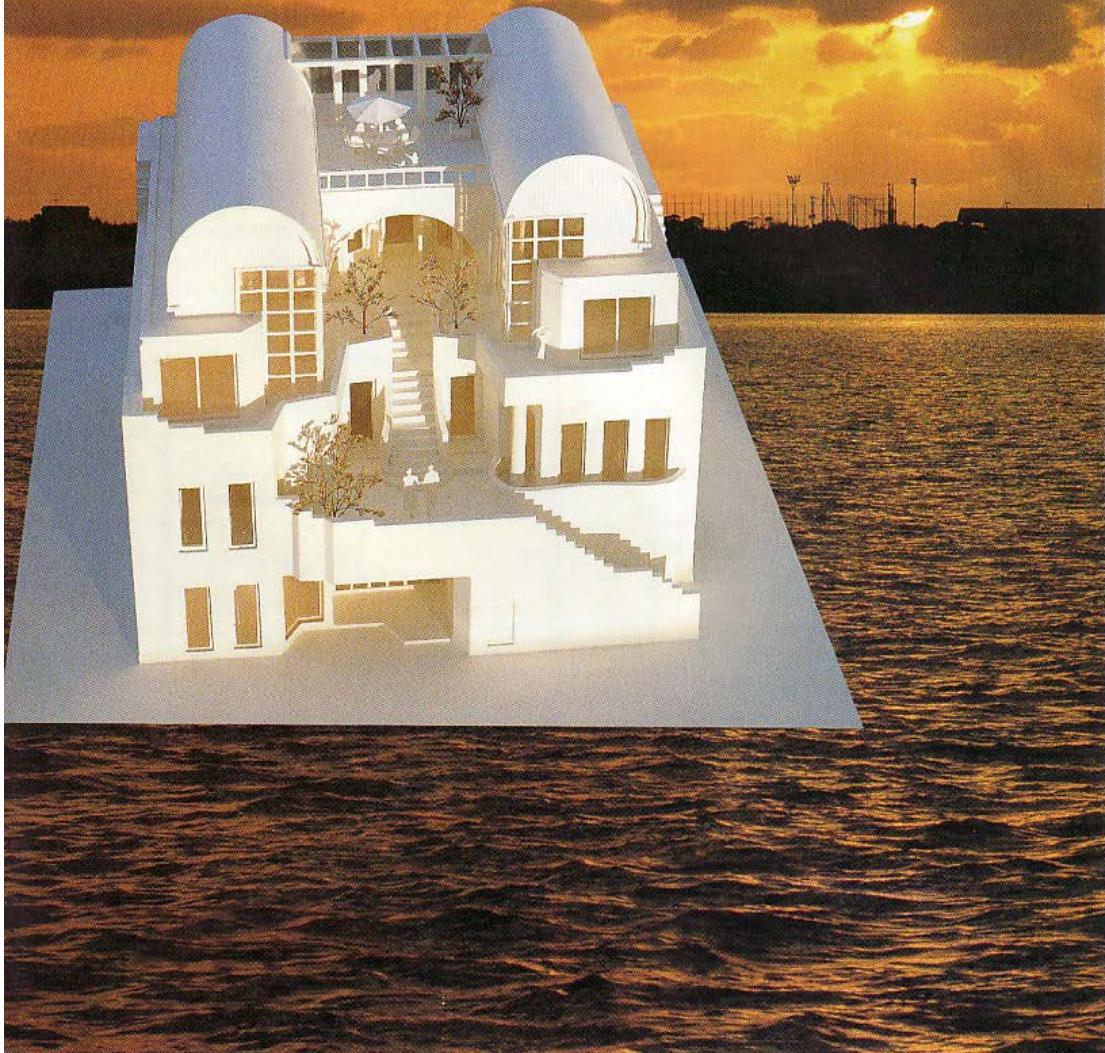
'93~'95

9

材木座のビーチハウス計画

文=白鳥健二

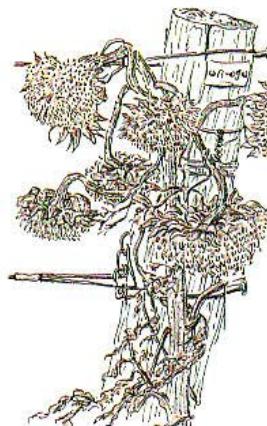
写真=大橋富夫



# 材木座のビーチハウス計画

(第2次案)

—夕暮の中の光明—

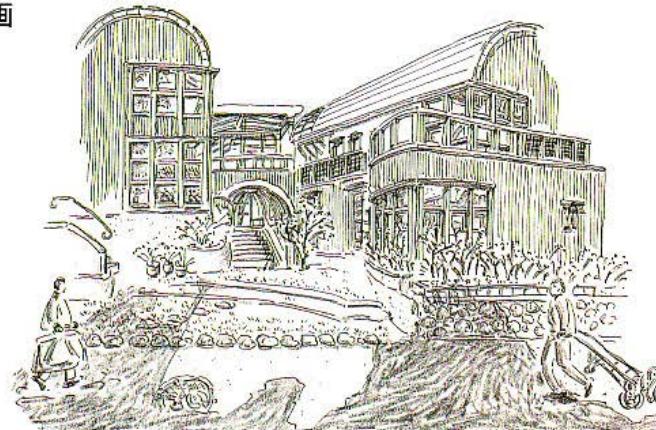


△冬枯れのひまわり  
新潟県長岡市、ワイナリーふどう畑にて（私のスケッチノートより）

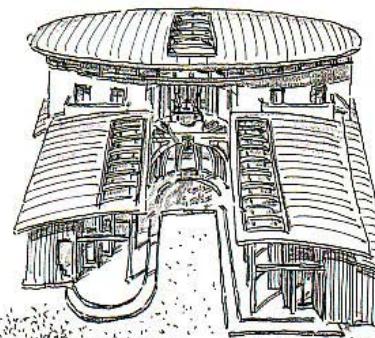
よくもこれだけの数の計画案を短期間につくったものだ。われながらあきれている。計画案は、実はまだある。アトリエCOSMOSのような小さな設計組織ですら4~5年前のあるバブルの頃は、それこそ多種多様な事が舞い込んで来たものだ。規模も額も、今とはヒトヶタ違っていた。ピックリするやら、ニヤニヤするやらのテンコ舞いの毎日で、あつという間に数年間が過ぎた。

鎌倉市材木座のビーチハウス計画は、ちょうどその頃、私のアトリエに突然舞い込んで来たヤツだ。そして、バブル崩壊とともにあっけなくアトリエを去って行った。それこそ、あつという間の出来事だった。その後クライアントとは、それっきりである。後に残ったものは、分あつい設計図書や確認通知書、何冊もの見積書etc……。それと五十分の一の真っ白な模型である。実現しないことが決定した時点で、設計図書は紙切れ同然。死滅した計画案を目の前に、スタッフ一同ふか〜い溜め息をつく結果と相成ってしまったのである。

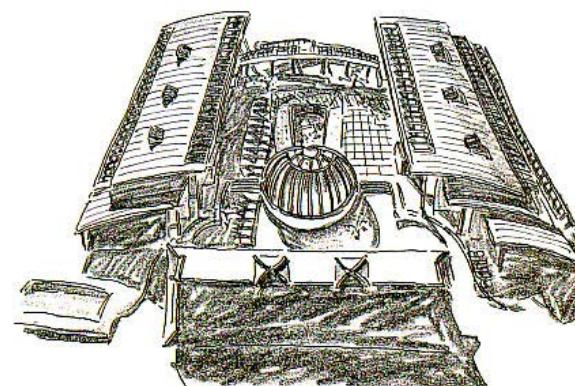
しかし今改めて考えてみると、計画案の「本体」は消えてしまったが、計画案の「夢」は決して消滅したわけではない。ずっと以前から抱き続けていたあのイメージの世界は、一向に消えていない。



△ヒマラヤ杉の家 1992年9月竣工、南側正面奥の半円形アプスと東西2本の円筒空間に面された中庭（共同住宅のコモンスペースとなっている）。中庭空間の精神は覺園寺の家へ転生していくことになる。



△覺園寺の家（連載中掲載予定）正面奥の楕円形の屋根は「鎌倉山ケアセンター」から引き継がれ、手前両左右の平屋の屋根は「御成小学校改築私案」へ、更に転生していく。半円アプスは正面奥に納まっている。



△「御成小学校改築私案」（連載中掲載予定）建築の各エレメントは、前世からやって来て、また来生へと転生していく。時のうつろいの過程で刹那的に形が存在している。

まるでマグマのように、私の体のベーシックな部分に今だに燃えたぎっている。そんなあつい存在を今漠然と認識している。計画案の夢はみんなこのベーシックな部分に根を下ろし、そこからエネルギーが吹き上げられ、生と死を繰り返しながら、何度も何度も生まれ変わって行く。いわゆる輪廻転生というヤツかも知れない。そんな発展系を今ようやく垣間見ることが出来るようになった。

ところで、純白に輝やく五十分の一のあの模型は、今、「写真家の大橋富夫さんの仕事場の屋上に置かれている。風が強い、冬晴れの太陽がソロソロ西に傾きかけた頃、写真家は光の具合に苦慮しながら模型をあちこち動かしている。一瞬、窓ガラスに反射した光線が模型を偶然照らし出した。「うわ～きれいですね」と言うと、写真家は黙って家の中から大きな姿見を持ち出して来た。いよいよ西の空に沈みかけた太陽光線を大瓶に反射させ、模型に向かた。五十分の一のスケール模型は一段と輝きを増した。太陽が沈む直前、逆りがそろそろ薄暗くなる頃、最後の反射光を受けて、模型は今朝光を浴びている。

この模型にこんな場面が用意されていたとは……！ 写真家は冷静にシャッターを切る。その音が家の耳元で快く鳴っている。夕暮の澄きた冬空の屋上で、純白の模型は今光明の中に存在している。遂に西の空に太陽が沈んだその時、同時に写真家のシャッターも止んだ。

今まで光明を浴びて生き生きとしていた模型の姿はもうそこではない。変り果てた姿を薄暗い空間にさらけ出しているだけだ。五十分の一の計画案は、今世界見たのかもしれない。生れ變る千載一遇のチャンスが今やって来た。そうか、今までの屋上の出来事は、「夢」が世界に転生するための儀式だったのか……？

「偶然の反射光だったね」撮影機材をゆっくり片付けながら大橋さんはボンと呟いた。「そうか……、偶然の儀式だったのか？」私も密かに呟やいた。長かった材木座の仕事を、今この屋上でようやく終了した。冬晴れの一日も今ようやく終了した。

この建築には二つの異なるエレメントが存在している。建物の下の二層分はRC造で、その上に木造の円筒空間が二層分重っている。

1、2階は質賃で、ガレージと2世帯の居住空間。3、4階は建主の専用住宅となっている。

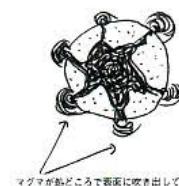


▲材木座のビーチハウス模型

[資料]	
建築名	材木座のビーチハウス
建築予定期	新潟県川崎市材木座1丁目
主要用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート+木造
階数	地上4階建
敷地面積	271.76m <sup>2</sup>
建築面積	195.44m <sup>2</sup>
延床面積	513.86m <sup>2</sup>

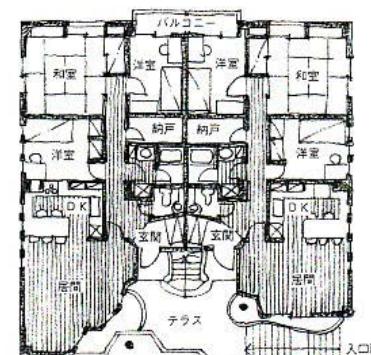


▲材木座のビーチハウス模型

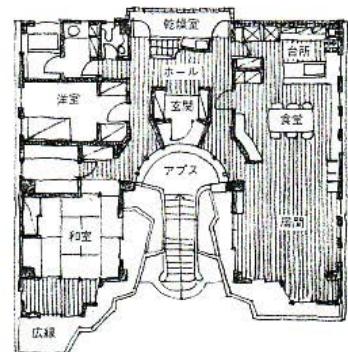


マグマが丸ごと表面に吹き出している

RC部分はコツコツと段々にせり出した基盤を形成し、これに対して木造による2本の円筒は、材木座海岸に向ってスパンを突き出している。低層部分は海岸段丘、地形建築としての重量感のある有機的イメージであるのに対し、高層部分はこの地形の上に軽く載ったビーチハウス。ジオメトリックな存在が意図されている。



△材木座のビーチハウス2階平面図



△材木座のビーチハウス3階平面図